付録-6 詳細調査報告書様式

一目次一

	ページ
詳細調査写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
コンクリート健全性調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
アルカリ骨材反応調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
塩害調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8

詳細調査調書(その1)詳細調査写真

				•		<u>ノ 1 / 0十小山0/9 三</u>	<u> </u>			
管理	番号	工営所		路線名			監督職員	点	針	
施設	名称	延長		幅員	建設年	交差対象物名称	<u>, </u>	所在均	_H 起	
委請	名		-	業者名	•	•	点検者名	PITE	終	
	写真番号				撮影年月日	写真番号			撮影	年月日
					位置記号					部材名
					±0.1.=2.52	_				±0.1.=2.50
					部材記号					部材記号
					 損傷の種類	-				 損傷の種類
					1月間の1月間に 1月間					1月局の1世界
					損傷度評価					損傷度評価
					32412322411					37 (173.2-4) 12
					メモ					メモ
詳										
細										
'nω										
調										
查	写真番号				撮影年月日	写真番号			撮影	年月日
					位置記号					部材名
写					+0.1.1=0.C3	_				+n =
_					部材記号					部材記号
真					 損傷の種類	-				 損傷の種類
					1只肠♥ノ作業]只 易り/ 生状
					損傷度評価					損傷度評価
					メモ					メモ

詳細調査調書(その2)コンクリート健全性調査票

コンクリート健全性調査票(調査位置概要図)

管理番号	工営所	路線名		監督職員	点検日	
施設名称	延長	幅員	建設年 交差対象物	70名称	_{而在地} 起	
委託名		業者名	,	点検者名	終	

調査位置図
その他 世本第50世帯がわれてような記録をする(接流会はのどの父間を調本したれ、どの切けを調本したれわれてように記すする)
ツーニャがごの切まがわれてしてもコロナナス(核源人はの位別と思すしたか、じの切けと思すしたかわれてしてにココナス)

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする(橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する)

詳細調査調書(その2)コンクリート健全性調査票

中性化深さ調査票(調査結果)

管理番号	工営所	路線名		監督職員	点検日	
施設名称	延長	幅員	建設年 交差対象物名称		新在地 起	
委託名		業者名		点検者名	終	

調査位置詳細図(※1)	調査結果					
	調査径間	間	調査径間			
	調査部位	立	調査部位			
		1	測			
	m m m	2	定中②			
	一定化	3	※果作 ③			
	mm)(※2 中性化深さ		測定結果(mm (※2) mm			
	2 2					
	<u></u>	平均	平均	:		
	測か	1	_測 か <u>①</u>			
	(mm) 測定結果 かぶり深さ		(m)			
	m 結 深		m結次 ○果之			
		平均	I			
	環境条件 (通常: 1 塩害:2)	# 1、	環境条件 (通常:1、 塩害:2)			
	発錆限界深 (※3)		発錆限界深さ (※3)			
	竣工年		竣工年			
	供用年数	数	供用年数			
判定(中性化進行状況より、コンクリートの品質低下が懸念される場合は×、されない場合は〇)						
そ の 他						

- ※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする(基本となる部材からの距離などを記入)。
- ※2 中性化深さは3箇所測定し、それらの値は平均値からの偏差が±30%以内でなければならない。(平均値からの偏差(%)=[(個々の値-平均値)/平均値]×100)
- ※3 発錆限界深さは、通常環境(かぶり深さ-10mm)、塩害環境(かぶり深さ-25mm)とする。

圧縮強度調査(コア法)

管理番号	工営所	路線名			監督職員	点検日	
施設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称	-	_{乖左地} 起	
委託名	-	業者名		•	点検者名	所住地 終	

•					•		
		位置記号		件	!試体寸法	質量 (kg)	
	ſ		供試体質	量(g)		見掛けの密度	
	١		/	1		最大荷重fc'(N)	
計	式以		供試体長 (mm)	2		高さ補正値	
	1	部材記号		平均		高さ補正後圧縮強度(N/mm²)	
			供試体	1		静弹性係数(kN/mm²)	
			直径	2		設計基準強度(N/mm²)	
			(mm)	平均		判定(圧縮強度>設計基準強度なら〇)	
	L	径間		•	試体寸法	質量 (kg)	
	١		供試体質	量(g)		見掛けの密度	
	,		供試体長	1		最大荷重fc'(N)	
調査結果	式 		(mm)	2		高さ補正値	
結 1/2	2	部位		平均		高さ補正後圧縮強度(N/mm²)	
	١		供試体	1		静弹性係数(kN/mm²)	
	١		直径 (mm)	2		設計基準強度(N/mm²)	
	_		(11111)	平均		判定(圧縮強度>設計基準強度なら〇)	
		径間			試体寸法	質量 (kg)	
	١		供試体質	量 (g)		見掛けの密度	
			供試体長	1		最大荷重fc'(N)	
米	式 		(mm)	2		高さ補正値	
	3	部位		平均		高さ補正後圧縮強度(N/mm²)	
			供試体	1		静弹性係数(kN/mm²)	
			直径 (mm)	2		設計基準強度(N/mm²)	
			(11111)	平均		判定(圧縮強度>設計基準強度なら〇)	

圧縮強度調査(反撥硬度法)

管理番号	工営所	路線名		監督職員	点検日	
施設名称	延長	幅員	建設年	差対象物名称	_{而左州} 起	
委託名		業者名		点検者名	所在地 終	

	調査No		1		調査No			
	調査部位		主桁		調査部位			
	測定回数	測定値	測定回数	測定値	測定回数	測定値	測定回数	測定値
	1		16		1		16	
	2		17		2		17	
	2 3		18		2 3		18	
	4		19		4		19	
	5		20		5		20	
	6		21		6		21	
	7		22		7		22	
	8		23		8		23	
	9		24		9		24	
	10		25		10		25	
	11		26 27		11		26 27	
	12 13				12 13			
■	14		28 29		14		28 29	
調査	15		30		15		30	
結結			30				30	
結果	平均値				平均値			
	標準偏差σX				標準偏差σX			
	打撃角度 α (°)				打撃角度 α (°)			
	角度補正値ΔR				角度補正値ΔR			
	補正反発硬度R				補正反発硬度R			
	補正前圧縮強度 F'(N/mm2)				補正前圧縮強度 F'(N/mm2)			
	材齢係数K				材齢係数K			
	補正後圧縮強度 F(N/mm2)				補正後圧縮強度 F(N/mm2)			
	設計基準強度 (N/mm2)				設計基準強度 (N/mm2)			
	判定				判定			

アルカリ骨材反応調査(調査位置概略図)

管理	理番号	工営所	路線名			監督職員	点検日	
	設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称	_	所在地 <mark>起 終</mark>	
委	託名		業者名			点検者名	新生地 終	
		位置記号	~		部材記号			
調査位置図(※1)	では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ							

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする。(基本となる部材からの距離などを記入)

詳細調査調書(その3)アルカリ骨材反応調査

アルカリ骨材反応調査(調査結果)

管理				工営所	j	路線名				<u> </u>	监督職員		点検日		
施設	名称			延長		幅員	建記	9年	交差対象	象物名称			所在地 起終		
委託	【 名]	業者名				Я	点検者名		//		
	位	置記	구 · ·			~			Z	部材番号					
			₹ (mm)						•						
				攻膨張量(mn	n)				解放	膨張率(%)				
			時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W
		促	残存膨張量(mm)												
	試	進養生	残存膨張率(%)												
	料	養	時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W				
	1	生													
			残存膨張率(%)												
			談張量(mm)												
			彭張率(%)												
			字膨張性												
		基長(mm)													
		標	標準養生 解放	攻膨張量(mn	n)					膨張率(%)	6111			5 1.44
調		l	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W
查	- 15		残存膨張量(mm)												
結	試料	進養	残存膨張率(%)	O) A /	71.47	O)A/	O) A /	4.0\4/	4.4107	4.0\4/	4.0\4/				
調査結果(※1	料2	食生	時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W				
\bigcirc	_	±	残存膨張量(mm) 残存膨張率(%)												
1		스 ^마													
-			談張量(mm) 彭張率(%)												
		土が	欧張率(20) 字膨張性												
				效膨張量(mn	n)				AP 方ケ	膨張率(%)				
		127	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W
		促		<u> </u>	1011	1 211	5511	12011	1 1 111	10011	1 0 0	v v	OVV	1 0 0	O V V
	試	進	残存膨張率(%)												
	料	進養	時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W				
	3	生	残存膨張量(mm)												
			残存膨張率(%)												
		全脏	談張量(mm)			•	•				·				
		全脏	膨張率(%)												
			字膨張性												
	アル	カリヤ	骨材反応(※2)												
		判	〕定												
		計	平価												
<u> </u>	49	足准	善生試驗(.)	CI-DD2) またはカー	ナダ法に進じ	て分析した結	里を記入する	3 カナダ法	の場合は	2週目までの選	il定値を記入	する		

^{※1} 促進養生試験(JCI-DD2)またはカナダ法に準じて分析した結果を記入する。カナダ法の場合は、2週目までの測定値を記入する。 ※2 試料1~3の最悪値とする。

塩害調査票(調査位置概要図)

管理番号	工営所	路線名		監督職員	点検日	
施設名称	延長	幅員	建設年 交差対象物名科	7	_{而在地} 起	
委託名		業者名		点検者名	8	

^;;			,	<i>***</i>
		==***		
		調査位置図		
マルル	4			
その化	R			
I				

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする(橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する)

塩害調査票(調査結果)

管理番号	工営所	路線名		監督職	城員 点検日	
施設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称	_{而左地} 起	
委託名		業者名		点検者		

	調査位置詳細図(※1)			調査結果			
			位置記号				
			部材記号				
	含	(%2)	表面部 (O-30mm)				
			中間部 (30-60mm)				
			深部 •(60-90mm)				
			深部 (90-120mm)				
			中性化深さ(mm)				
			かぶり深さ測定結果(mm)				
			鉄筋位置の塩化物 イオン濃度				
			·				
		竣工年					
			供用年数				
	判定(1.2kg/m3以上:要対策,1.2kg/m3未満:対策不要)						
評価							

- ※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする(基本となる部材からの距離などを記入)。
- ※2 JIS A 1154に準じて分析した結果を記入する。